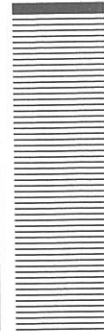


TYPE OF INDUSTRY

情報通信研究機構 NICT 先端研究

(163)

生産現場では、環境の急激な変化への対応を余儀なくされており、じわじわと進んでいた省力化・省人化の動きが活発化している。中でも、移動を伴うAGV (Automate



科学技術・大学

d Guided Vehicle) だが、無計画な無線導 低下するトラブルが発 入は生産性を低下させ 生している。

やスタッククレーン などの搬送設備、遠隔 掘点の立ち上げや運用 管理のためにフリーハ ンドで映像通話可能な ウエアラブルデバイス の導入検討が目立って いる。

これらの機器は無線 通信の利用を必要とす 頻発し、生産稼働率が 上げ、多種多様な無線 順の確立や、シミュレ

の協調と共存を目指す SRF無線プラットフォームの研究開発を推 進している。実証によ り得られた知見を基に 新たな機器導入がトラ ブルの原因とならない ために、SRFセンサ ーにより新規導入する 機器台数の見積もり手 順の確立や、シミュレ

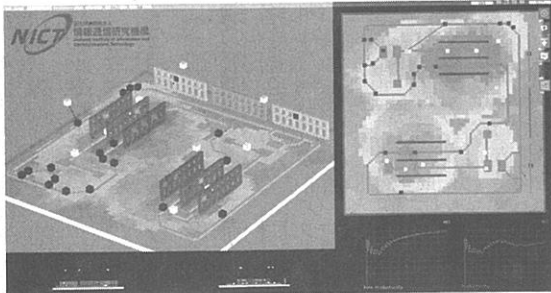
ーターにより無線が生 産稼働率に与える影響 を把握(図)し、計画 的な無線導入の支援を 行う。

これらの技術の標準 化および普及の促進を さらには、生産現場には 動きも進んでいる。 世界のメーカーの無線システムが 導入されているた め、それらを共存 させる取り組みと しての国際標準化 や、日独政策対話 の一環であるハノ ーバー宣言や日独 大臣級共同声明に シミュレーショ ンによる無線環 境と生産稼働率 把握

多様な無線 協調・共存

ワイヤレスネットワーク総合研究センター！
ワイヤレスシステム研究室 主任研究技術員 大堀 文子

2009年会津大学博士前期課程修了後、民間企業で有無線ネットワークのシステム開発や新規事業開発を経て、17年からNICTに出向、20年から現職。製造現場における異種無線通信技術の協調制御及び安定化に関する研究開発に従事。



把握

定した通信利用の確立を進める予定である。(火曜日に掲載)